

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
障害児理解演習Ⅱ Understanding Children with Disabilities Ⅱ		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(保育士養成課程選択必修)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
障害児保育Ⅰ・Ⅱ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
大塚 登	本館2階	火・水・木・金曜日の9～17時		授業中に指示します
授業の概要				
この授業では各自の障害児者観を問い直すことにより、障害児者は「こうあるべきだ」というバイアスに気づき、より幅広い視点から障害児者を理解し、より良い支援につなげることをねらっています。				
授業の目標				
賛否両論が生じやすい題材、並びに話題に上がらない出来事などの題材をもとに、 ①自他の考えを他者に分かり易くまとめる・分かり易い発表ができるようにする。 ②他者の意見も尊重しながら自分の考えを深められるようにする。 ③自分とは反対の考えの中にも参考にすべき考えが多々あることを知り、自分の考えを相対的に見ることができるようになる。				
授業の方法				
賛否両論ある意見が分かれるような情報を提供し、①自分の考えをまとめる、②班ごとに意見を発表し合う、③班ごとに出た意見まとめて発表する。なお、意見の深まりが見られなかった場合は、授業者が質問を補充する。発表を聞いて自分の考えを深め、文章にまとめる。という授業形態をとります。13、14回の授業では障害とまではいきませんが少数者ゆえの生きにくさを抱える人たちの存在を紹介します。				
学習の成果（学習成果）				
①異なる意見を参考に、障害児者は「こうあらねばならない」という偏見が自分にもあることに気づき、自分の考えを修正する・深化させることができる。 ②自分の考えは絶対ではなく、異なる意見にも参考にすべき点があることに気づき、自分の考えを相対化できる。 ③他者に分かり易い説明を心がけることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（授業方法、評価の説明）、障害児者と命について考えよう1（相模原事件から）			
第2回目	障害児者と命について考えよう2（「神聖な義務」を読んで考えよう）			
第3回目	障害児者と命について考えよう3（出生前診断について考えよう）			
第4回目	障害児者と命について考えよう4（障害児と母親の裁判から考えよう）			
第5回目	障害児者と命について考えよう5（1～4回目の授業を振り返り、自分の考えを再考する：課題作文①「障害と命」）			
第6回目	障害児者の幸せについて考えよう1（このパフォーマンスはありか：障害者のプロレス）			

第7回目	障害児者の幸せについて考えよう2（このパフォーマンスは笑えるか：障害者のプロレス）
第8回目	障害児者の幸せについて考えよう3（このパフォーマンスは笑えるか：障害者のお笑い）
第9回目	障害児者の幸せについて考えよう4（障害児の失敗を笑えるか）
第10回目	通所入所施設のノーマライゼーションの努力についてまとめようI（ノーマルではない支援）
第11回目	通所入所施設のノーマライゼーションの努力についてまとめようII（ノーマルな生活に近づける努力）
第12回目	障害児者が地域で暮らすために1（障害者と犯罪）
第13回目	障害児者が地域で暮らすために2（バリアフリー・ユニバーサルデザイン：講義）
第14回目	少数者の生きにくさについて考えよう（日本の人権問題と色覚障害：講義）
第15回目	心のバリアフリーについて考えよう（1～14回の授業のまとめ、課題作文2「私の心のバリアフリー」）

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		
レポート	22%	課題作文1・2は11点×2回＝22点。それぞれ800字以上で自分の障害児者観にどのような変化があったか或いは無かったか、バリアフリーをどう考えるかを書いてください。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	78%	毎回ワークシートを用意します（6点×13回＝78点）。他者の考えを聞いて自分の考えの変化の有無について、理由を述べてまとめるようにしてください。
その他		

教科書と参考図書

毎回資料を用意します。

履修上の留意点・ルール

自分の考えを文章化する際、電子辞書を使用することを薦めます。